

マレーシアにおける福祉の研究

特定非営利活動法人 アジア地域福祉と交流の会

〒854-0001 長崎県諫早市福田町 357 番地 15 社会福祉法人 南高愛隣会内

助成事業の概要

平成30年12月11日～16日の6日間において、マレーシア ボルネオ島のデイセンタームヒバ（Muhibbah）での研修（スタディツアー）を実施した。全国の福祉事業所に勤務する職員の育成及び離職防止を主な目的として、生活環境も福祉の制度も未整備な環境におけるアジアの福祉現場を通じ、福祉の原点を見つめ直す機会を提供し、地域福祉を支える人材の育成を行った。

また、これまで実施してきた18回のワークキャンプと2回のスタディツアーの経験を生かし、現地スタッフとのディスカッションで福祉の仕事の共通点を感じると共に、施設整備や環境整備といった共同作業で利用者と一緒に汗を流し、共に働く喜びを体験する機会とした。

参加者はACE会員並びに全国の社会福祉法人等に勤務する理学療法士、社会福祉士、看護師等14名の参加となった。

事業の成果

ボルネオ島サラワク州でRCS（現地登録NGO）が運営するデイセンター「ムヒバ（Muhibbah）」は、チェアマンのジョセフ氏と8名のスタッフ、20名程度のメンバーが通うセンターである。

今回で3回目となったマレーシアスタディツアーであるがその前身は2006年から2017年まで8回継続してきたワークキャンプである。ワークキャンプのいい部分は残しながら、できる

だけ多くの方に時間的負担や身体的負担が少ない形で参加していただけるように実施している。

今回が過去2回と大きく変わった点であるが、ムヒバの設立者である中澤健夫妻の病気療養により、参加が叶わなかった点が挙げられる。中澤夫妻の同行がなかったのは非常に心細い面もあったが、11月に事前調査に出向き、現在のムヒバの状況や政権交代後のマレーシアの福祉の現状を把握するとともにスタディツアー実施に向けての資材の調達や現地で準備できるものの確認を行った。また日本から参加したメンバーが中澤ご夫妻に全てお任せではなく、それぞれの役割を明確に持って参加することができた点は、今後のACEの方向性を見出すことができたのではないかと思う。

また、毎回参加して下さる参加者もおり、ムヒバのメンバーやスタッフのことを深く知り、現地の置かれた状況を理解し、現地スタッフやメンバーとの信頼関係の構築ができつつあることも大きな進展である。

初日には、現地スタッフと日本スタッフの意見交換会を行い、その後、ツアー参加者のみで「自力で持続可能な運営の為のサポートは？」「現地に資本主義の流れや先進技術を運ぶことは幸せに繋がるか？」「今後の具体的なサポート方法は？」「物は無いが日本が失った真の豊かさや地域との繋がりがここにある」「どんなに生活が便利になったとしても、どんなに制度が整ったとしても「人は人でしかありえない」、「人は人との関わりのなかで生きていく」、そんな当たり前の感覚を思い出させてくれた」「考えて、共同作業し、作

り出す」支援の姿勢、親族全体でのつながりや節目を大事にする価値観、「食べるために通っている方も多く、生命を支える福祉の原点がある」など議論を行った。また、マレーシアの福祉の現状は、福祉事業所を運営していく為には、公金や寄付に頼らざるを得ない状況であるが、政権が代わり、公金も今後どうなるかわからないという現実についても協議した。

ツアーの2日目以降には、ワークキャンプの要素も取り入れ、外壁のペンキ塗りや道路の補強工事、調理を通じて、現地メンバーやスタッフと一緒に汗を流す、共に働く喜びを体感することができた。

■ 成果の広報・公表

FaceBook でお知らせするとともに、ACE だけで会員への発信を行う。

また、6月の通常総会において、現地の状況報告とともに報告を予定している。

■ 今後の展開

ムヒバを運営する RCS も課題は多いものの、家の中に閉じこもってどこも行き場のなかった子どもたちや途中までしか学校に通っていなかった子どもたちに、活動の場を提供し、他の人たちと関わる機会が与えられたことの意味が大きいことは確かである。その RCS や ACS を今後も変わらず支援していく活動は、ACE の大きな役割であり、一方で、勤務年数おおよそ3年以上の日本で福祉に携わる職員の育成と離職防止を主な目的に「福祉の原点をもう一度見つめ直す」「アジア諸国の福祉の現状を理解する」「日本人が薄れてきた人と人との絆」など原点回帰のツアーになることを期待し、今後も継続していきたい。